

(資料 1)

(とよはしはりすとすせいきょうかいせいしとふくいんしゃまとふえいせいどう) 豊橋ハリストス正教会聖使徒福音者馬太聖堂

員数：1棟

所在地：豊橋市八町通三丁目15番地

所有者：豊橋ハリストス正教会

1 指定理由等

豊橋ハリストス正教会聖使徒福音者馬太聖堂は、吉田城跡である豊橋公園の南側、公園入口近くに位置し、西を正面として建つ。明治35年(1902)に現在地に聖堂用地が購入され、大正2年(1913)に竣工した。設計監督は、ハリストス正教会副輔祭の河村伊蔵とされる。

聖堂は、木造、1階建、銅板葺で、外壁は下見板張を基本とする。平面は、西から東へ、玄関、啓蒙所、聖所、至聖所を一直線に並べる、ハリストス正教会聖堂に共通する平面をもつ。

外観は、玄関上部に尖頭屋根とクーポラ¹を戴く八角形平面の鐘塔を建て、啓蒙所は東西棟の切妻造とし、聖所には葱坊主形のクーポラを戴く宝形造の鍔屋根²を架ける。

内部は、壁・天井とも漆喰塗で、中心飾りから照明器具を吊し、聖所においては、正方形平面にペンデンティブ³状の隅切りを設け、八角形平面のリブ付き曲面ドーム天井を架けて小宇宙を造り出し、八角形の中心飾りからシャデリアを吊している。

豊橋ハリストス正教会聖使徒福音者馬太聖堂は、ハリストス正教会聖堂の定型的な平面構成をもつとともに、我が国における木造ハリストス正教会聖堂の完成型の建築構成と細部意匠をもつことで歴史的価値が高い。
(指定基準：歴史的価値の高いもの)

- 注1 クーポラ ドームのこと。特に屋根の上や小塔の上のドームを指すこともある。
注2 鍔屋根 寄棟屋根の上に切妻屋根を乗せたような屋根。外観上入母屋屋根に似る。
注3 ペンデンティブ ドームの出発点を形づくるために四隅に設ける球面三角形の部分。

2 概要

この建物は、ロシア正教会の聖堂として建てられた教会建築である。建物は、木造平屋建で玄関上部に八角形平面の鐘塔が立っている。正面入口は西を向いており、玄関を入ると東に向かって順に、啓蒙所、聖所、至聖所が続いている。啓蒙所は洗礼を受けていない人が儀式の時に待機する場所である。聖所は聖堂の中心で、儀式を行う場所である。至聖所は聖遺物を安置する場所であり、聖所と至聖所を区切る壁が聖障^{せいしょう}である。

外壁は下見板張で白ペンキ塗、内壁と天井は漆喰塗である。屋根は、現在は銅板葺だが、竣工時はブリキであった。聖所の天井は、建物の補強のために四隅に架けた梁を利用した八角形平面のドーム状になっている。

建物の設計は、当時、東京・ニコライ堂の副輔祭^{かむらいそう}を務めていた河村伊蔵である。彼は、松山聖堂(明治41年)、大阪聖堂(明治43年)、修善寺聖堂(明治45年)に続いてこの豊橋聖堂を設計した。このような経緯の中で建設された豊橋聖堂は、木造のハリストス正教会の聖堂として完成度の高い建物である。

注4 副輔祭 正教会における聖職者の職分のひとつ。主教・司祭のもとで、主教・司祭を補佐する。



外観（南から）



外観（北から）



聖障



玄関